



行政視察報告書

*期 日 平成30年10月30日(火)～11月1日(木)

*調査地 滋賀県近江八幡市

VR安土城事業について

奈良県橿原市

八木駅南市有地活用事業について

茨城県古河市議会

産業建設常任委員会

平成30年12月14日報告

委員長	渡 辺 松 男
副委員長	大 島 信 夫
委 員	園 部 増 治
委 員	赤 坂 育 男
委 員	増 田 悟
委 員	小森谷 英 雄

【近江八幡市の概要】

近江八幡市は、平成 22 年 3 月 21 日、旧近江八幡市と旧安土町が合併して誕生した。滋賀県のほぼ中央に位置し、北は琵琶湖、東は東近江市、南は竜王町、西は野洲市に接している。また、琵琶湖で最大の有人島である沖島を有している。

ラムサール条約の登録湿地である西の湖は、琵琶湖で一番大きい内湖であり、ヨシの群生地である水郷地帯は琵琶湖八景の一つに数えられている。

古くから農業を中心に栄えてきたが、中世以降は陸上と湖上の交通の要衝という地の利を得て、多くの城が築かれた。また、織田信長の改革精神により開かれた楽市楽座は、豊臣秀次の自由商業都市の思想に引き継がれ、さらに近江商人の基礎を築いた。このような歴史的背景から、各時代を代表する歴史的遺産が点在するとともに、風情が薫る景観は、今日も各所で受け継がれている。

- 人 口：82,227 人 （H30.10.1 現在）
- 世帯数：33,485 世帯 （H30.10.1 現在）
- 面 積：177.45 k m² （うち琵琶湖 76.03 k m²）

調査事項

○VR安土城事業について

1. 事業策定の経緯について
2. 事業の概要について
3. 実施した（実施している）内容と効果について
4. 今後の展開及び課題等について

調査事項

VR安土城事業について

①事業策定の経緯について

日本の歴史上の人物のなかでも非常に人気の高い織田信長が築いた「安土城」を幻のままで終わらせたくないという想いで、これをキャッチフレーズに、ヴァーチャルリアリティ技術を活用し、幻の城・安土城の復元を行うことで、観光・文化振興などの一つのツールとしてまちづくりに役立てていくことを目的とした。

また、近江八幡市は合併により八幡堀周辺のエリアと安土エリアの2つの地域があるが、八幡堀周辺エリアに対し世界的にも有名な安土城があった安土エリアの観光客はあまり多くなかった。合併によるスケールメリットを生かすかたちで安土城の復元に取り組むことになった。

②事業の概要について

(1) スマートフォン・タブレット型VR安土城の公開

市内に12カ所のビューポイントを設定し、各ポイントでアプリを起動することでGPSを感知して、当時の安土城がどのように見えるのかを体験できる。

(2) シアター型VR安土城システムの公開

200インチのシアターでコンピューターの中で復元された安土城や城下町を体感。ゲームのようにコントローラーを使うことで、大画面の中で利用者が自由に移動し、散策することができる。

③実施した（実施している）内容と効果について

◆実施した内容

【平成22年度】

- ・内部検討・協議 計31回実施

【平成23年度】

- ・VR安土城創造会議（VR安土城プロジェクトチームの取り組み内容を承認するとともに必要に応じ精査・意見を行なう） 2回開催
- ・VR安土城プロジェクトチーム（VR安土城制作・普及に関する調査・研究や実際の運用等、実働的な活動を行う）
ミーティング 5回開催
- ・花園大学との共同研究。天主復元3Dモデルの作成

【平成24年度】

- ・VR安土城創造会議 4回開催
- ・VR安土城プロジェクトチームミーティング 4回開催
- ・大阪大学との共同研究。3Dモデル基礎データを実用段階へとするためのデータ入力実施
- ・VR安土城アプリ iOS版作成、平成25年3月1日リリース
- ・モニターツアー実施

【平成25年度】

- ・大阪大学との共同研究により、作成コンテンツの工夫や画像向上のためにシステムの改良実施
- ・VR安土城アプリ アンドロイド版作成
平成25年6月9日リリース
- ・タイムスクープハンター（TV番組）とコラボ事業実施
- ・高精度型VR安土城システム作成、報告会実施

【平成26年度】

- ・信長の館に高精度型シアター常設

【平成27年度】

- ・著作物の利用に関する規則制定
- ・信長の館VRツアー実施
- ・信長の館（公益財団法人安土町文芸の郷振興事業団）がDVD、ポスターの作成、販売開始。
- ・職員用観光名刺作成
- ・テレビ放映、雑誌掲載等対応

【平成28年度】

- ・テレビ放映、雑誌掲載等対応

【平成29年度】

- ・城なび館でダイジェストムービーの公開開始
- ・VR映像を利用したストリートミュージアムアプリの公開開始。
- ・テレビ放映、雑誌掲載等対応

◆効果

(1) スマートフォン・タブレット型VR安土城の公開

- ・効果については表しにくく、平成25年の例でいうとiOS版のダウンロード数2,577件のうち8割以上が海外からのダウンロードとなっている。PRとしては国内外を含めてできていると思われるが、実際にそのアプリを使って体験している人がどれくらいいるかという疑問が残る。

スマートフォン・タブレット型VR安土城のアプリダウンロード数

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	合計
iOS 版	2,577	1,097	467	7,491	11,632
アンドロ イド版	208	795	357	912	2,272
合計	2,785	1,892	824	8,403	13,904

※ H29 年度から不具合のため、ストリートミュージアムに移行

(2) シアター型VR安土城システムの公開

- ・シアターを常設している信長の館の入館者数の推移をみると、テレビ番組でVRが利用されるなど、かなりの反響があり、増加した時期もあるが、市内全体の観光客が減少したこともあり、効果が把握しづらい。しかしながら、テレビ等で数多く利用されているので、PR等には活用されている。

④今後の展開及び課題等について

- (1) 今後の展開 ⇒ 新しい周遊ルートの構築
課題 ⇒ 全体的な移動手段等の整備。
- (2) 今後の展開 ⇒ 旅行業・観光関連企業への積極的なPRによる着地型ツアーの実施
課題 ⇒ ツアールートの構築
- (3) 今後の展開 ⇒ コンテンツ内容の修正・刷新の検討
(第2弾のコンテンツ作成)
課題 ⇒ 財源の確保
- (4) 今後の展開 ⇒ 観光アプリ「ストリートミュージアム」の公開・整備
(現在5箇所 ⇒ 今年度10箇所)
課題 ⇒ 費用対効果

【橿原市の概要】

橿原市は、奈良県のほぼ中央に位置し、東西 7.5km、南北 8.3km の広がりを見せ、東は桜井市、西は大和高田市、南は高取町・明日香村、北は田原本町と接している。昭和 31 年 2 月 11 日に八木町、畝傍町、今井町、耳成村、真菅村、鴨公村の 6 ヶ町村が合併市制を施行、同年 7 月に隣接数ヶ大字を編入し、現在の市域となっている。面積は 39.56 平方キロメートルで、全体的に起伏が少なく、市内の中央部には飛鳥川、西には曽我川が流れている。また、万葉の時代を偲ばせる大和三山（畝傍山：標高 199m、耳成山：139m、香久山：152m）がそびえ、その中央には約 1300 年前にわが国初の首都であった藤原宮跡がある。その他、市内には歴史的文化遺産が点在している。鉄道網では JR と近鉄が縦横に走り、あわせて 13 の駅があり、また国道 24 号・165 号・169 号と道路網も発達し、大阪からは 30～40 分、京都からは約 1 時間、関西国際空港からは約 1 時間、名古屋からは約 2 時間と交通の便も良く、古代から交通の要となっている。

市章（市のマーク）は、市の頭文字「カ」を表象し、上部の羽型はトビの雄飛を表し、下部の円形は融和・平和を表し、平和に発展する古代文化の都を表している。（昭和 31 年 9 月 5 日制定）

- 人 口：122,322 人 （H30.10.1 現在）
- 世帯数：53,156 世帯 （H30.10.1 現在）
- 面 積：39.56 km²

調査事項

○八木駅南市有地活用事業について

1. 事業策定の経緯について
2. 事業の概要について
3. 事業による中心市街地活性化および観光における効果について
4. 観光コンシェルジュについて
5. 今後の展開及び課題等について

調査事項

八木駅南市有地活用事業について

①事業策定の経緯について

大和八木駅は1日約7万人の利用客がある橿原市の玄関口となっており、行政・文化・商業施設が集積している。その駅南を近鉄八木駅南整備事業として、昭和62年度から平成19年度までの21年間、区画整理事業と街路事業を組み合わせ合わせた沿道区画整備型街路事業として整備し、平成19年9月に事業が完成した。そのなかの八木駅南市有地面積3,795㎡を幾度かの事業計画、中止を経て、中心市街地の活性化と広域観光の振興を目的に整備した。

②事業の概要について

事業名称：八木駅南市有地活用事業

公共施設等の名称：庁舎と観光施設及びそれらの付帯施設から構成される複合施設

公共施設等の整備等の内容：庁舎と観光施設及びそれらの付帯施設から構成される複合施設の設計、建設、維持管理及び運営をPFI事業として一体的に実施する。

契約期間：平成27年3月26日～平成50年3月31日

契約金額：9,655,693,160円

(内取引に係る消費税及び地方消費税額 金677,048,560円)

◇基本協定書締結

平成27年1月9日

◇八木駅私有地活用事業の事業契約締結

平成27年3月26日

◇複合施設の設計・建設

設計業務に12ヵ月、建設期間に1年10ヵ月を要して完成

◇複合施設の引き渡し

平成30年1月15日に施設を橿原市に引き渡し

◇複合施設の愛称

公募によりミグランス（鳥のトビの学名）と決定

◇複合施設のオープン

平成30年2月13日に分庁舎を供用開始

平成30年2月15日にカンデオホテルがオープン

③事業による中心市街地活性化および観光における効果について

- ・奈良県の中和地域に位置する橿原市の玄関口である大和八木駅前にホテルを建設したことで周辺地域への起爆剤となった。目標として、市内宿泊者数の5万人純増を目指している。
- ・周辺の土地価格が上昇しており、賑っている。

④観光コンシェルジュについて

- ・施設の1階に設けている観光施設室では、一般の観光案内所でみられるパンフレットを持ち帰ってもらう、お土産を販売することを主体としていない。お客様の要望を聞き、きめ細やかな対応をする観光案内が特徴となっている。
- ・お客様の観光時間、要望に合わせた観光プランを提案できる、観光コンシェルジュを常駐させている。
- ・穴場的な場所も提案できるような案内所を目指している。

⑤今後の展開及び課題等について

- ・宿泊施設と連携して、特に東京オリンピック効果を利用してインバウンドの強化をしていく。
- ・関東圏に広報宣伝を強化し、橿原市の知名度をあげていく。

【視察後記】

今年度の行政視察は、滋賀県近江八幡市において「VR安土城事業について」、また、奈良県橿原市「八木駅南市有地活用事業について」、それぞれの取り組みを研修してきた。

近江八幡市のVR安土城事業は、日本の歴史の中で特に人気の高い織田信長が築いた「安土城」を幻のままで終わらせたくないという想いで、VR技術を活用し、幻の城・「安土城」の復元を行うことで、観光・文化振興などのツールとして街づくりに役立てることを目的とした。プロジェクトチームを作り、大学とも共同研究し、市内12カ所のビューポイントで当時の安土城がどのように見えるかを体験できる「スマートフォン・タブレット型のVR安土城」と200インチのシアターでコンピューターの中で復元された安土城や城下町を体感できる「シアター型VR安土城システム」が公開されていた。TV番組とのコラボ、TV放映、雑誌掲載等々、新しい時代の観光・文化振興のツールとして進化していくと思う。古河市の観光事業にも取り入れることも可能であり参考になったが、ソフト開発の財源の確保と、費用対効果の検証が課題であると感じた。

橿原市の八木駅南市有地活用事業は、庁舎と観光施設及びそれらの付帯施設から構成される複合施設の設計、建設、維持管理及び運営をPFI事業として一体的に実施されていた。大和八木駅前にホテルを建設したことで周辺地域の起爆剤となっている。施設の1階には、観光時間、要望に合わせたきめ細かい観光プランを提案できる観光コンシェルジュを常駐させている。この事業は、市有地面積3,795㎡に幾度かの事業計画中止を経て、中心市街地の活性化と広域振興を目的に整備された。関係者の執念とリーダーシップを感じた。古河市も古河駅東部土地区画整理事業の早期完成が望まれるが、橿原市の取り組みは大変参考になった。

【視察風景】



滋賀県近江八幡市 視察



奈良県橿原市 視察